資料２

千葉市基本計画

（原案）

【修正案・抜粋】

令和３年○月

千葉市

２　１００年先を見据えた「千葉市ならでは」の計画とするために

本計画の策定に当たっては、１００年先を見据えた「千葉市ならでは」の計画とすることができるよう、次の４つのことに留意しました。

（１）千葉市の特性を活かした計画

都市は、自然や歴史を背景に、様々な「いろ」や「かお」などの特性を持っています。

１００年先の将来にわたり、人々から選ばれ、愛される、活力のある豊かな都市であり続けるためには、本市ならではの特性や個性を活かしたまちづくりが重要です。

そこで、まちづくりに携わるすべての主体が共有し、磨き上げて未来に引き継ぐべき千葉市の特性を明らかにし、まちづくりの基本的な方向性を定めました。

（２）中長期的な未来を見据えた計画

２０４０年頃、我が国の人口構造は人口減少が深刻化し、高齢者人口がピークを迎え、また、人口増加期に集中的に整備してきた公共施設・インフラが老朽化に伴い更新需要が高まるなど、様々な課題が生じることが想定されています。

また、人口・都市機能の集中する大都市を中心に新型コロナウイルス感染症が拡大する中、暮らしや働き方など社会経済活動の様々な場面において、新しい技術を活用した社会変化に即応できるまちづくりが求められています。

このような顕在化してくる諸課題に対応し、官民連携のもと、将来にわたり持続可能な都市経営を図るため、計画期間のさらに先まで見据えつつ、１０年後に実現したい姿を描くとともに、２０４０年頃を展望した社会変化、将来リスク、ＳＤＧｓ[1]の「誰一人取り残さない」といった視点等を踏まえ、この１０年間に重点的に推進する政策及び分野目標を位置付けました。

（３）みんなで共有し、みんなで取り組むまちづくりの計画

千葉市新基本計画では、「わたしから！未来へつなぐ　まちづくり」をまちづくりのコンセプトに、様々な主体の連携が織りなす「まちづくりの底力」を「まちづくりを支える力」と位置付け、計画の推進を図ってきました。

これまでの取組みにより、多くの市民、団体が地域に根差した活動を展開していることから、本計画では、行政が担ってきた様々な機能についても、様々な主体がサービス提供や課題解決の担い手としてより一層関わっていくことを目指し、「まちづくりを支える力」を「まちづくりを進める力」へとさらに発展させていくことを志向しています。

---

[1] ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）：Sustainable Development Goals の略称。２０１５年９月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための２０３０アジェンダ」にて記載された２０３０年までに持続可能でよりよい世界を目指す持続可能な開発目標のこと。貧困の根絶、ジェンダー平等、気候変動対策などの１７のゴールと１６９のターゲットを定めている。

また、策定段階から、まちづくりに携わる様々な主体がみんなで共有できる計画とするため、市民、学識経験者、各種団体の代表などから構成される、千葉市新基本計画審議会での審議はもとより、「千葉市１００人未来会議」や「千葉市まちづくり未来研究所」など様々な市民参加の取組みを通じて、市民をはじめとする多様な主体が未来の千葉市に馳せる夢や思いを、計画に積極的に反映しました。

（４）地方創生を進める計画

本計画は、人口減少に伴う課題の克服と地域の活性化を目指す、本市の地方創生の理念と目的を同じくするものです。

総合的かつ戦略的なまちづくりにより、今後の本市の地方創生の取組みの一層の推進を図るため、「千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」を基本計画及びこれに基づき具体的な取組みを定める実施計画に継承・統合しました。

これに伴い、人口・地域経済等の分析を行うとともに、「まちづくりの基本的な方向性」において、「未来の千葉市を実現するための戦略的な視点」を位置付けました。

④　年少人口の減少

■今後想定される変化
- １５歳未満人口は継続的に減少
- ２０２０比　２０３０：▲１２．１千人（▲１０．６%）
  ２０４０：▲１７．３千人（▲１５．１%）

■変化に伴う影響と問題点
- 次世代を担う人材の先細り　→　国や地域の魅力・活力の低下

■対応すべき課題
- 安心して出産・子育てできる環境の充実
- デジタル技術が加速度的に進展し、価値観が変化・多様化する社会で活躍するために必要な能力の育成

- 我が国の将来の経済・社会活動を担い、未来の社会づくりを先導する人材が徐々に先細り、国や地域社会の魅力・活力が低下していくおそれがあります。
- 本市においても、出生数の減少幅が年々拡大傾向にあり、また、子育て世帯人員が主に属する３０－３９歳の転出超過がそれに拍車をかける状況も懸念されます。
- 社会全体の活力を維持するため、子どもを産み・育てたいと思う人から選ばれるよう、今後、より一層、安心して子を産み、そして育てやすい環境を整備することが必要です。
- また、非認知能力[2]や様々なデータを活用し、新たな価値を生み出す能力（データサイエンス力）など、これまで以上に価値観が多様で、変化が激しく、そして、デジタル技術の進展に伴い、構造変革が進むであろう社会で活躍していくために必要な能力の育成が不可欠です。

[2] 非認知能力：意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、自制心、創造性、コミュニケーション能力といった、測定できない個人の特性による能力。

1　みんなでめざす未来の千葉市

より豊かな千葉市の実現に向け、本市ならではの特性や中長期的な社会変化を踏まえ、多様な主体が共有し、ともにまちづくりを進めるための指針として、みんなでめざすべき１０年後の未来の千葉市の姿を定めます。

みんなが輝く　都市と自然が織りなす・ちばし

・わたしたちの今の暮らしは、悠久の歴史の中で先人たちが培ってきた土台の上にあります。
・今を生きるわたしたちには、このまちの豊かさ、魅力をさらに高め、未来の市民によりよい形で引き継げるよう努める責務があります。
・次の１００年先の未来を見据えた、１０年後に実現しているべき本市の姿は、本市の特性である「自然」、「利便性・ゆとり」、「拠点性・交流」を活かし、都市の活力と自然の潤いが織りなす、新たな価値が生まれるまちです。
・また、本市に住まい、活動する人々が、性別・年齢・国籍・障害の有無などに関わらず、生涯を通じて学び、成長を続けることで、一人ひとりの個性を活かし自分らしく活躍できるとともに、多様な主体がつながり連携しあうことで、未来に向けて輝き続けるまちです。
・このようなまちの実現に向けて、みんなが同じゴールを目指してまちづくりに関わっていけるよう、めざすべき１０年後の本市の姿を「みんなが輝く　都市と自然が織りなす・ちばし」と定めます。
・この、めざすべき姿をみんなで共有し、ともにまちづくりに取り組んでいきます。

２　未来のまちづくりに向けた戦略的視点

「みんなが輝く　都市と自然が織りなす・ちばし」の実現に向け、本市ならではの特性を活かしつつ、新たな時代を切り拓く未来志向のまちづくりを進めるため、分野横断的かつ重点的に取り組むべき戦略的視点を、以下のとおり定めます。

（１）１００年先に引き継ぐ　持続可能なまちづくり

■縄文から受け継ぐ「自然と共生する」精神を活かした、ＳＤＧｓ達成に向けた取組みの推進
■みんなの力を活かした、災害に強い、安全・安心なまちづくり

・わたしたちは、先人たちから縄文古来より受け継がれた、身近な自然を活かした豊かな暮らしを享受し、今もなおその「自然と共生する」精神を引き継いでいます。
・一方、地球規模で増大する、気候変動に伴う災害やグローバル化に伴う感染症のリスクなどの環境問題が、わたしたちの安全で安心な生活や社会の持続可能性を揺るがす要因となっています。
・そこで、先人たちから悠久の時の流れの中で受け継がれた「自然と共生する」精神を活かし、市民が将来にわたり、持続可能でよりよい社会で暮らせるよう、ＳＤＧｓの達成に向けて、脱炭素化の推進をはじめとした様々な取組みを行います。
・また、災害の発生や社会の変化などのリスクに対応し、安全で安心に暮らせるよう、多様なステークホルダーとの連携・協力のもとで、災害に強いまちづくりを推進します。

（２）ゆとりを生み・活かす　創造的なまちづくり

■職住近接を活かしたゆとりある暮らしづくり
■市民が快適な暮らしを実感できるスマートシティの推進
■成熟社会を豊かにする次代を担うひとづくりと文化芸術・スポーツのまちづくりの推進

・本市は、これまでのまちづくりを通じた「なんでもそろう・なんでもできる」多彩な都市機能の強化により、職住近接が実現できる大都市へと発展しました。
・一方、モノ消費からコト消費への転換にみられるように、わたしたちの価値観は物質的な充足から内面的な充足を重視する方向へと変化しています。
・そのため、今後の人口減少局面において暮らしを豊かなものとするためには、みんなが日常的な暮らしの中で、自由に伸び伸びと様々な活動・体験をすることで、内面的な充足・成長を得られることが重要です。

・そこで、本市ならではの利便性の高さにより生み出される時間のゆとりと、身近にある浜辺・海辺や内陸部の豊かな自然が生み出す空間のゆとりを最大限に活かし、市民が生活の豊かさを実感でき、住み続けたいと思えるまちづくりを推進します。
・また、多様な主体とともにつくる市民中心のスマートシティの推進などにより、誰もが全市域で生活の利便性や快適性を感じることができるまちの実現に挑戦します。
・さらに、未来のまちづくりを担う人材を育て、その活動を支えるとともに、文化芸術・スポーツの振興などにより、創造的で活力ある、質の高い暮らしを支える環境づくりに取り組みます。

（３）世界とつながる　多様性を活かしたインクルーシブなまちづくり

■市民一人ひとりが属性にかかわらず自分らしく活躍できる地域社会づくりの推進
■「誰一人取り残さない」セーフティネットの構築
■市民の懐の深さとオリンピック･パラリンピックのレガシー[3]を活かした共生社会づくりの推進

・社会が成熟し多様化していく中、性別・年齢・国籍・障害の有無など、一人ひとりが持つ違いを認め、それぞれが個性や能力を活かして、自分らしく活躍できる社会を構築することがより重要となっていきます。
・併せて、家庭や経済状況など、個人の置かれた環境により、孤立したり、排除されたりすることなく、安心して暮らせる社会を、これらを支える担い手の育成・確保とともに築いていく必要があります。
・本市の社会・経済活動の中でも、市民一人ひとりがそれぞれの個性を活かして活躍し、つながることで、様々な個性を持つ多様な市民の活躍が、新しいサービスや価値を生み出す原動力となり、それがまた多様な人材を惹きつけるという好循環を生み出し、本市や市内企業の価値向上、さらには市民の豊かな暮らしの実現にもつながります。
・そのため、わたしたちがこれまでの歴史の中で培ってきた市民の「懐の深さ」と、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の競技会場都市としての経験を活かし、様々な機会を通じて多様性を認め合い、尊重する意識を育むことで誰もがいきいきと活躍し、社会に活力をもたらすとともに、国内外からも選ばれる、多様性を活かしたインクルーシブなまちを目指します。

（４）都市機能の集積を活かした　地域経済・社会の活性化

■挑戦都市としての矜持を持ち、次の時代のトレンドを創出
■雇用・商業・観光の拠点として、圏域の中心的な役割を果たすまちづくり
■地域特性を活かした広域連携の推進

[3] レガシー：過去に築かれた、精神的・物理的な遺産のこと。

【千葉市型コンパクト・プラス・ネットワークが実現されたまちの姿】

・下総台地に広がる山林・田園や川辺、また東京湾の遠浅の浜辺・海辺では身近に自然と触れ合い、大規模な公園ではレクリエーションなどにより人々が交流しています。

・市域内をはじめとする産業の活動が高度な次元で相互に連携し、基幹的な道路や鉄道、海運等により強固な交通網が構築され、東京圏域内外の産業エリアがつながっています。

・首都圏の主要な拠点都市として、都心が経済・産業、コンベンションなどの中枢的な役割を担う一方で、公共交通沿線や生活拠点の周辺などへ居住や都市機能の立地が緩やかに進んでいます。

・生活拠点では日常生活に必要な施設が身近にあるなど生活機能が確保され、歩いて暮らすことができる居心地のよい生活圏を形成し、空間の質や魅力の高いまちとなっています。

・生活拠点が公共交通や次世代の交通サービスでつながり、拠点間を円滑に移動できるとともに、通信技術の導入を多くの産業や社会生活に取り入れ、地域の特性に応じた多様な働き方や住まい方を支える環境が確立しています。

・豊かな自然が広がる郊外部では、それぞれの特性を活かしながら多様なライフスタイルを選択することができ、郊外部を含む全市域で、災害など様々なリスクに対応し、安全で安心に暮らし続けられる良好な環境が整っています。

・このような都市構造＝「千葉市型コンパクト・プラス・ネットワーク」が実現した姿を、本市の独自の資源を想起する言葉を紡いで『下総台地の緑風、東京湾の浜辺、人々が行き交う“ちば”に住まう』と表現し、多様な主体がこのイメージを共有することで、市民が強い誇りと愛着を持ち、そして自らもまちづくりに積極的に参加する、そうした魅力あるまちを創っていきます。

4　目指すべき区の姿

本市の６つの区が有する特徴を改めて整理するとともに、これらを最大限に活かし、伸ばすことにより、わたしたちが目指すべき将来像を明らかにし、魅力と活力ある区づくりを推進します。また、これまで述べてきた「みんなでめざす未来の千葉市」「未来のまちづくりに向けた戦略的視点」及び「目指すべき都市構造」を踏まえることにより、各エリアの充実が本市全体の魅力と活力の向上へとつながるまちづくりを進めます。

【戦略的視点とのつながり、区同士の交流について、記述を検討します。併せて、「主な特徴」と「目指すべき区の姿」の記載順を入れ替えます。】

≪目指すべき区の姿の構成≫

項目	内容
主な特徴	各区の概況や、これまでの歴史やまちづくりの中で培ったエリアの特徴
目指すべき区の姿	主な特徴を活かし、伸ばすことにより、１０年後、２０年後に実現すべき区の将来像
実現に向けた取組みの方向性	目指すべき区の姿を実現するための取組みの方向性

※地域課題等を踏まえた取組みについては、「まちづくりの総合８分野」における施策の中で、推進します。

基本情報

	人口※1	世帯数※1	面積※2
中央区	２０５，０７０人	９５，２２７世帯	４４．７２㎢
花見川区	１７９，２００人	７７，７３２世帯	３４．１９㎢
稲毛区	１６０，９６８人	７１，３３４世帯	２１．２２㎢
若葉区	１５１，０７８人	６２，７７３世帯	８４．１９㎢
緑区	１２６，８４８人	４６，７９２世帯	６６．２５㎢
美浜区	１４８，７１８人	６３，９９９世帯	２１．２０㎢

出典　※１）人口・世帯数：平成２７年（２０１５年）国勢調査人口等基本集計（総務省統計局）

※２）面積：令和２年（２０２０年）全国都道府県市区町村面積調（１０月１日時点）（国土交通省国土地理院）

5　まちづくりを進める力

■多様な主体の一層の連携により「みんな」で進めるまちづくり
■公共私の役割分担の見直しと市民主体のまちづくりを支える仕組みづくり
■多様な主体が社会課題の解決に挑戦できる環境づくり

・生産年齢人口の減少により、官民問わず担い手不足が深刻化する中、地域においては、コミュニティ機能の低下が問題となるなど、地域を支える力の弱体化が懸念されています。
・一方、人口減少・少子高齢化に伴い、地域課題の多様化・複雑化する中、地域、社会・経済及び行政サービスにおいて、既存の役割分担にとらわれない、柔軟な連携を図っていく必要があります。
・そのため、既存の公共私の役割分担を不断に見直しながら、市民、団体、企業、大学等、行政など、まちづくりに関係する多様な地域の担い手が、対話などを通じて相互連携を強化・促進し、みんなでまちづくりを進めていきます。
・また、多様な主体が、地域の課題を「自分事」と捉え、主体的に課題解決に挑戦できる環境を整備し、まちづくりに参加したくなるきっかけをつくるとともに、その調整役としての役割を行政が担うほか、市民の目線に立ち、地域活動等に取り組む職員を育成します。
・これらの取組みにより、市民をはじめとする多様な主体が、まちづくりの楽しさや成果を実感できるとともに、新たな交流・連携が生まれ、広がっていく好循環を生み出します。
・さらに、千葉県と千葉市の共通課題の解決や、それぞれの行政サービスの向上と効率化に向けた、県市間の連携強化を進めるとともに、より広範囲に影響のあるものについては、適切に国への働きかけを行います。
・加えて、圏域の持つ特徴や多様性を活かしながら、独自のライフスタイルを提案し、圏域全体の活力向上を推進します。

第５章　計画の推進にあたって

１　将来にわたり持続可能な行財政運営

不透明な社会経済情勢の中、環境の変化に対応するとともに、市民の信頼に応えるためには、市民視点・納税者視点を踏まえた、持続可能な行財政運営を効果的・計画的に行うことが必要です。

本計画に基づく取組みを計画的に推進するため、より具体的な事業内容を示す実施計画を策定します。

実施計画では、持続的発展につながる未来への投資について財政健全化とのバランスを取りながら着実に推進していくため、将来にわたり持続可能な財政構造を確立することを目指します。

また、最少の経費で最大の効果を挙げるための取組みを強化するため、行政のデジタル化を推進するとともに、行政改革推進指針や中長期の財政計画などと連携しながら、事業の見直しについて、不断に取り組みます。

さらに、施設の管理運営の効率化や計画的保全による維持管理コストの縮減、利用状況を考慮した施設総量の縮減、更新時における施設規模の適正化や集約化・複合化の検討など、民間活用やまちづくりの視点を含む経営的な視点に立った公共施設の適正管理を推進します。

加えて、本市の現状や将来展望に関して、市民への積極的な情報共有を図るなど、透明性の高い行財政運営を進めます。

２　計画の進行管理及び評価

本計画のまちづくりを推進するとともに、取組みの効果を高めるため、データに基づき、進捗状況の管理及び評価を実施します。

実施計画の終了時に行う政策評価においては、取組みの進捗状況や市民の実感などを踏まえ、基本計画のまちづくりの評価と課題の抽出を行うとともに、取組みの改善につなげます。

これに加え、実施計画においては、毎年度行う進捗管理により事業の達成状況を把握することで改善を図るとともに、地域情報の可視化や市民意見の分析などデータを活用しながら、社会変化や施策推進上の課題を把握し、施策の検証、機動的な意思決定を行うことで、迅速に必要な施策に取り組んでいきます。